

令和6年が終わろうとしています

広徳中学校の生徒の皆さん、保護者の皆様、校長の児島です。生徒の皆さん、先生方、そして支えてくださった保護者や地域の皆様に、心から感謝したいと思います。この二学期は、本校にとって、多くの挑戦と成長の機会に満ちていました。その中で、授業、部活動、学校行事など、多くの場面で皆さんが一生懸命取り組む姿を見て、私も大変うれしく感じました。特に11月の文化総合発表会は、皆さんの団結力や創造力が存分に発揮された、本当に素晴らしい発表会だったと思います。

冬休みが始まりますが、この期間を有効に使い、自分自身をさらに成長させる時間にして下さい。健康に気をつけ、家族や友人との時間を大切に、心も体もリフレッシュできることを願います。

三学期に、また必ず、皆さんの元気な姿を見られることを楽しみにしています。安全で充実した冬休みを過ごし、どうか良いお年をお迎えください。

○ 今年の漢字 “も” 「金」 でした

修学旅行でも訪れた京都の清水寺で発表される「今年の漢字」には2021年に続いて今回も「金」が選ばれたのは皆さんもよく知っているでしょう。「金」の字が選ばれた理由として、パリオリンピックやパラリンピックに出場したアスリートが数多くの金メダルを獲得したことなど、光をあらわす「金（キン）」と、政治の裏金問題や金目当ての闇バイト事件、止まらない物価上昇など、影をあらわす「金（かね）」の2つの意味を示しているということです。



今年のパリパラリンピックでは銅メダルでしたが、2021東京パラリンピックで女子マラソン視覚障がい部の「金」メダルを獲得した道下美里（みちしたみさと）選手の言葉を皆さんに紹介します。

それは、「つらくて苦しい時も、自分次第で前向きになれる。」という言葉です。今、進路選択に向けて一生懸命に頑張っている3年生の皆さんはもちろん、日々の生活で勉強や部活動に努力を重ねている1、2年生の皆さんにも、この言葉を贈りたいと思います。

「難がないのは無難な人生、難があるから有り難い。」という言葉も、彼女がテレビ番組で話していたものです。彼女に視覚障がいがあるからこそ、より強い言葉に感じました。自分の不自由さを強さにしている所が、本当にすごいと思います。

○ 「命の大切さ」 ～令和3年 千葉県八街市の中学3年生の作文から～

「命」とは、自分だけのものではありません。家族、仲間、周りの人々、色々な人達から支えられているものなのです。この世界の全ての人々の「命」が一つ一つかけがえのない、尊い両親から贈られた大切な宝物なのです。当たり前で明日がやってくることがどんなに幸せなことか。今、一緒に喜び、悲しみ、楽しみ、笑い合える家族や仲間がいることがどれだけ素晴らしいことか。一人一人が今を生きられていることに感謝し、周りの人々を思いやる気持ちを忘れずに、自分の事も、相手の事も大切に愛おしく思い合う…そんな想いが少しずつでも広がっていくような世界を、私は作りたい。